

経済協力セミナー第 20 回

Trade Finance と国際金融 <ECA Finance と OECD 輸出信用 G/L>

講演者：大橋 祥正氏 国際協力銀行（JBIC） 審査部参事役

文責：永井哲平

草案作成：田中晏奈

青木麻莉 甲津美月

小沢絵奈 坂本友香

小曾根志帆 原口悠郁



大橋氏は、1988年3月に京都大学経済学部を卒業され、同年4月より日本輸入銀行に入行した。1991年には、経済協力開発機構(OECD)に出向。さらに1991年、海外経済協力基金(OECF：現 JICA)に出向。1999年、パリ駐在を経て2003年に大阪支店融資第2班課長を務めた。2008年に審査部第3課長に就任し、現在は審査部参事役として活躍している。講演では、国際協力銀行(JBIC)の紹介DVDのあと、Trade Finance と国際金融 <ECA Finance と OECD 輸出信用 G/L>というテーマのもとに ECA のファイナンスや活動状況について話された。

1. ECA ファイナンス

公的輸出信用機関（ECA）は、発電所、製鉄・石油プラント、鉄道車両、建設機器等設備コストが多額で、しかも資本回収期間の長い長期ファイナンスが必要な事業のためにある。途上国政府・企業による上記のようなニーズに応えるために、先進諸国や、主要途上国は通常、公的輸出信用機関（ECA）を設立しているのである。ECA による輸出信用は、民業補完的な意味合いが強い。利益の確実性が疑われない場合、民間金融機関の介入が期待できるが、カントリーリスク、金利変動、規模の大きさ等を考慮して、

民間の金融機関のみではリスクコントロールの難しい融資を行うものである。このような事業の例としては、「パプアニューギニアの LCG 案件」等があり、高い評価を得ている。伝統的な貿易金融スキームとして、バイヤーズ・クレジットとサプライヤーズ・クレジットが存在するが、バイヤーズ・クレジットは融資先が輸入者・企業であるのに対し、サプライヤーズ・クレジットは融資先が国内の輸出者である。近年では、サプライヤーズ・クレジットはあまり用いられていない。公的支援に基づく輸出信用の過当競争が信用条件の不当な緩和を招き、世界貿易の発展を阻害するのではないかという懸念から、「OECD 輸出信用 G/L」が 1978 年の OECD での合意とがなされた。過剰に緩和された信用条件を懸念し、国際的に平等な条件を確保するものとも言える。この OECD ガイドラインの目的は、「①公的輸出信用の秩序ある利用のための枠組み提供、②輸出者が、最も有利な信用条件ではなく、財・サービスの品質と価格とに基づいて、公平な競争環境 (level playing field) を構築するもの」と規定されている。OECD での年数回の各種会合では、条件のみでなく、公益性を高める自主規制が導入されている。このような会合では、日本政府代表団 (METI、MOF、JBIC 等) も参加し「出来るだけ輸出信用を日本向けにする」ということを念頭に活動されている。日本は原則として開発途上国を対象国として、日本からの輸出品に融資を行っている。これは、先進国への融資は民間に任せ、JBIC は途上国に特化するという方針によるものである。最近の OECD ガイドラインにおける議論の動向は、2009 年に原子力セクター了解、再生可能エネルギー・水事業セクター了解がある。ここで主に行われるのは自国の産業育成のためのルール交渉である。

2. ECA の活動状況

現在では、アレンジメントに基づくスタンダード取引が主流である。シェアが拡大傾向にあるのは、船舶・プロジェクトファイナンス取引である。2 大供与国である米国とドイツは、一機のコストが多額である航空機ファイナンスを主に扱っている。期間中に供与された輸出信用総額の 40% はメキシコ、ロシア、イラン、サウジアラビアといった石油製品関連国に対する融資である。また、期間中のメンバー国の輸出信用総額の約 50% は運輸セクターである。

3. 実例紹介

実例として、Corporate Finance と Project Finance が説明された。Corporate Finance では企業に融資するのに対し、Project Finance では企業のプロジェクトに限定して融資することがこの二つの大きな違いである。つまり、Project Finance では融資したプロジェクトが成功しなかった場合、融資が戻らない危険性も孕んでいるという

ことである。リスクコントロールは **Commercial/Economic Risk** と **Political Risk** の二つのリスクコントロールに大別される。**Commercial/Economic Risk** では、**completion risk**(プロジェクトが完遂するかどうか)、**operation risk**(プロジェクトの運営)、**fuel supply/reserve risk**(燃料の到達・供給)、など商業的、経済的な分野が扱われている。一方、**Political Risk** ではその国に所在する政治的リスク、例えば政治的安定性やテロリズムといった項目が扱われる。これらのリスクを処理し融資を行うのが基本だが、処理が困難な場合は保険の適用や、第三者の保障等の別の対策を講じて対応する。

4. まとめ

ECA とは「公的機関+金融機関」の役割を果たすものである。公的機関が関与する意義は、政策意義が認められる案件を承諾することと民業補完にある。また、金融機関としての責任も併せ持っており、「収支相償」原則に基づき成功する見込みのある取引でなければ取り扱わないということが、援助機関との根源的な違いである。JBIC は国際機関とは異なり、完全に国家戦略のため、「Japan」のための機関である。莫大な予算を活かし、業界、政府、国民などの出資者のために活動している。

5. 質疑応答

Q.リーマンショックという世界的な経済打撃を受けて、方針の変化などはあったのか。

A.現在、まさしく転換期にある。新聞等の報道からもわかるように、日本が今回打撃を受けた部分を分析し、これまで以上にどの分野を伸ばしていくべきかが考えられてきている。例えば、「パッケージ・インフラ」といった事業は獲得していかなければならないだろう。日本の機材を輸出し国内雇用を創出することが重要であり、必要とされている。

今回の講演中、大橋氏は ECA が国家戦略のための機関であることを強調され、その役割や、機能を詳しく説明された。講演中には公開されない内部資料も見せてくださり、国際協力銀行(JBIC) や国際経済に意識の高い学生にとって、非常に刺激的であり、貴重なものであった。時間の関係で、講義内での質疑応答は一つに限られてしまったが、その後自主的に質問をしにいく学生の姿も多く見られ、関心がおおいに高まったことがうかがえた。